



# JSQC ニュース

No.379

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ: www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JAQホームページ開設について
- 2-私の提言 改めて医療界から産業界へ
- 2-ルポルタージュ 第421回事業所見学会ルポ
- 3-第49年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い/12月の入会者紹介
- 4-行事案内/論文募集/会員登録情報更新のお願い/事務局からのお知らせ

## JAQホームページ開設について

JAQ連携協議会委員/JSQC監事 新木 純

2013年11月 会長に就任した大久保尚武氏は、学会員と意見交換しながら、「今後の日本における品質管理というものはどうあるべきか」を考えて、1つの重要な課題を導き出しました。「日本には、品質に関する組織がたくさんあり、それぞれ役割を担って活動しているが、これをできるだけ同じ理念のもとに一本化し、強力なものにする必要があるのではないだろうか」というものでした。そのためにまず、中核となる3組織（日本科学技術連盟、日本規格協会、日本品質管理学会）の緩やかな連合体形成を起案しました。

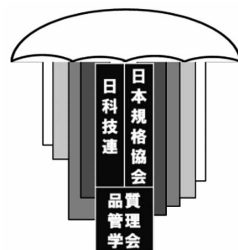
2014年5月 日本科学技術連盟 専務理事 小大塚一郎氏、日本規格協会 理事長 揖斐敏夫氏、大久保会長の3人が集まり、「日本を代表するアンブレラ組織設立に向けて3組織を中核に検討していこう」となりました。

2014年6月 品質管理シンポジウム（日科技連主催）の第100回大会で大久保会長が「日本品質管理学会の中長期計画SHINKA」を発表しました。4つのSHINKAの中の「真価」として「品質活動の統合（アンブレラ組織JAQ創設）」を掲げました。（表・1）

表・1 中長期計画“SHINKA”の活動方針

区分	主な活動
真価 (Future value)	日本の成長に貢献する品質管理 品質活動の統合[アンブレラ組織JAQ <sup>®</sup> (仮称)創設] * Japan Association for Quality
進化 (Evolutionary value)	研究者の実践能力の向上 品質誌の改革・分化(研究者向け・産業界向け)
深化 (Deepened value)	先端的管理技術の開発 研究成果の世界に向けた発信
新化 (New value)	サービス、農業等へのTQM浸透 国・自治体の行政サポート

このアンブレラ組織には幅広く品質に係わる様々な組織の参画を期待し、JAQが新しい日本の品質管理を代表する組織となることを目指しました。



図・1 品質管理のアンブレラ組織体制

その後からJAQ設立準備のために3組織の代表者2~3名が参加する「三者調整委員会」を結成し、事務局は当学会、会場準備等は日本科学技術連盟（東高円寺）と日本規格協会（三田）が持ち回りで2ヵ月に1回の頻度で、現在も継続して実施しています。

次の椿広計会長（当時）の下では、なぜJAQを設立するのか(設立趣旨)、JAQは何を目指すのか、どんな価値に共感・共有を促すのか（JAQ憲章）等について議論を重ねました。

続く小原好一会長（当時）は、いかに同志に働き掛け、拡大・運営していくかについて、3つの役割に分担して進めました。そして「JAQとして、できることから実行」という方針が示され、実際のJAQ活動が始まりました。

2018年2月品質不祥事の再発防止を討議した「緊急シンポジウム」、同年の品質月間での小原会長（当時）による「品質不祥事の再発防止に向けて」の講演とテキストの発行、2019年の品

質月間での棟近会長（現在）による「価値創造経営の勧め」等、徐々にJAQとして活動を広げていきました。

現在は、日本能率協会、品質工学会の2組織も参加いただき、設立準備会議名称も「JAQ連携協議会」と改称し、幅広い参画を目指して活動しています。

2020年3月 ようやくJAQホームページを開設しました。（図・2）



図・2 JAQホームページ

・URL: <https://jsqc.org/jaq/>  
 ※PC、スマートフォンで閲覧可能

現在参加の5組織のトピック・事業活動を中心に掲載し、日本の品質管理に係わる総合ポータルサイトを目指しています。是非、閲覧・活用してください。

最後に、日本の産業界が本当に発展していくためには、「産」が的確に「我々はこの方向に進みたい」というニーズを打ち出し、JAQ参加組織がしっかりと支援していくことが重要です。科学的な新メソッド開発、国際的な標準化の推進等で、強力にバックアップしていくという強い意思を持って取り組んでいくことが大切です。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

## ● 私の提言 ●

## 改めて医療界から産業界へ

ひたちなか総合病院 永井 庸次



企業立病院は減少しつづけています。100近くあった企業立病院は現在34にまで減少しています。株主に説明責任がとれない、医療事故でブランド名が傷つく、通常の経営と異なり規制も厳しく労働集約型の医療経営のノウハウに乏しい、給与体系の整合性が取れないなどがその理由です。しかし、我が国産業界のTQMが織り込まれている企業立病院も多くあります。TQMの基本的な考え方のもとに、日常管理、機能別管理、方針管理を実装し、QC七つ道具、新QC七つ道具、医療のTQM七つ道具などの

手法を活用し成果を上げています。QC活動もさかんです。

高度に複雑で業務変更や業務中断も多いのが医療です。医師、看護師など多職種が相互依存しながら並行業務、不連続業務に従事しています。チーム医療は必須ですが、各職種の専門性も高く、自立しており、教育も別々です。さらに、医療が高度化し、ロボット手術など要素技術が進歩しているにもかかわらず、管理技術が追い付いていないことにより、多くの医療事故が発生しています。

医療事故予防にもTQMの考え方は重要です。医療に起因した予期せぬ死亡事例が発生すると、外部委員を入れた院内事故調査委員会を開催し、原因分析し、再発防止策を作成する義務があります。原因分析に対しては、各種職能団体がRCA、業務フロー図など

の手法を周知・訓練しており、この数年間で医療界のノウハウは格段に進歩しています。

私は今、臨床現場を離れ産業医として企業の安全衛生委員会等に出席する機会が増えています。そこで愕然とするのは、企業の事故分析のマンネリ化、低レベル化です。手順を遵守する、注意喚起する、周知徹底する、マニュアルを新たに作成する、などなど。「作って、守って、改訂する」の発想はどこに行っただけでしょうか。病院では電子カルテの普及に伴い、その使い勝手の悪さ、データの断片化による見落としなどによる電子カルテ関連医療事故が増加しています。その対策の基本は、安全な電子カルテを採用し、電子カルテを安全に使用し、安全に使用していることをモニタリングすることで、真摯に取り組んでいます。

従来、医療界は産業界から多くのことを学んできました。しかし、最近、逆に今の産業界は医療界から学ぶことも多いのではないかと、懸念しています。

### 第421回 事業所見学会 ルポ

## オリエンタル酵母工業(株) びわ工場

2019年12月5日(木)にオリエンタル酵母工業(株)びわ工場を見学した。同社は、1929年、わが国初の製パン用イースト製造会社として発足、国内のパン食文化普及の原動力となった。現在は日清製粉グループ会社として食品事業とバイオ事業を展開。今回は琵琶湖北部のびわ工場を見学。ここでは菓子パンの中に入れるクリーム、粉末かんすい、ベーキングパウダー等の生産を行っている。

工場玄関より見学者全員に検温を実施。工場長、品質管理室長より工場概要、品質保証体制、従業員教育の説明の後、工場内を視察。品質方針「品質と安全はすべてに優先する」の元、受入原料から微生物等の検査を実施。工場内は3段階の衛生区域に分類し、床の色と制服の色で区分。毎日工場稼働前には配管内の生物的、理化学的検査の実施で安全性を確認。製品出荷時はトラックを丸ごと建屋に入れて積

込む等、HACCPによる食品危害防止が徹底されている。製品や原料に不具合が発生した際、直ちに不具合製品の範囲を特定できるよう原料すべてにバーコードシールを添付。計量時、配合時にバーコードを読み込むことによりトレースシステムを確立している。

2014年にISO22000を取得。AIBと合わせた厳しいグループ内監査を定期的実施。特にマニュアルや基準から逸脱した際の是正措置の記録と報告を重視。従業員からの不具合情報がすぐに上がるよう、内部コミュニケーションの活発化に重点を置いている。人材育成は「職人の背中を見て」から「階層別、年代別教育」へ進化。年間計画を立て従業員教育を実施。スキルマップを用いてモチベーション向上に繋げている。多数の改善発表資料が通路に並び、活発なQC活動が伺えた。

参加者からは、「人材育成の方法、入出荷制度のしくみがよく分かった」、「多岐に渡る質問に的確な返答で分かり易かった」等多数の好評価が得られ、大変有意義な見学会となった。

大変ご多忙の中、丁寧なご説明と充実した工場見学をいただきましたこと、びわ工場の皆様には厚く御礼申し上げます。

下村 健治 (株神戸屋)



# 第49年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第20回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

## 記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：  
以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

- 1) 企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
- b. 地域・社会への貢献を重視する。
- c. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
- d. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
- e. 女性に対する配慮を積極的に行う。
- f. 49年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。
- g. 特定の企業に属さず個人として品質管理の普及・発展に著しく貢献する活動を長年行ってきた人を含む。

評価項目：

本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

**[A] 所属組織への貢献**

- a 1 TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2 品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3 品質保証体制の確立
- a 4 その他特筆すべき活動

**[B] 地域・社会への貢献**

- b 1 日本品質管理学会の発展
- b 2 デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3 標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4 QCサークル活動の普及・発展
- b 5 日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6 品質管理に関する国際協力
- b 7 品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8 その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする。候補者が選考方針g.の場合、上司等とは品質管理について師事する者またはそれに相当する者を含む。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：[https://www.jsqc.org/ja/kiroku\\_houkoku/jushou.html](https://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html)  
業績リスト（様式219-2）の業績については、左記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2020年6月30日(火)

メール送付先：2020kourou@jsqc.org

選考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う

発表：9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

表彰：2020年11月28日(土)

本学会 年次大会 授賞式

連絡先：日本品質管理学会事務局

参考：[https://www.jsqc.org/ja/kiroku\\_houkoku/jushou/kouroushou.html](https://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html)

## 2019年12月の入会者紹介

2019年12月16日の理事会において、下記の通り正会員18名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....  
**(正会員18名)** ○清水 尚司（パワーサ  
プライテクノロジー）○加藤 勝（エイ  
ケイ・ケイ・エム）○木下 良介（ア  
ズビル）○金田 満彦（アスク）○風

間 拓朗（光商工）○安藤 祐司（コ  
ベルコ建機）○藤田 成貴（ナカハラ）  
○廣部 敦（A&L Studio）○平山  
雄一郎（CSAジャパン）○宮崎 敬（オ  
フィスソリューション）○大関 克知・  
大崎 由恵（ダイネンマテリアル）○  
北郷 恵行（OLED青森）○緒方  
正史（メイテック）○田中 圭造（岸  
紙工）○酒谷 敦子（ワコール）○荏  
畑 美穂（タガミーエクス）○大野

仁志（FJTホールディングス）

.....  
**(賛助会員1社1口)** ○三菱ガス化学

.....  
**名誉会員：23名**

**正会員：1754名**

**準会員：90名**

**職域会員：50名**

**賛助会員：144社187口**

**賛助職域会員：9名**

**公共会員：17口**

## 行事案内

### ●第169回シンポジウム（東日本）

テーマ：変化の時代に対応した、持続的成功を達成する組織能力を高める品質マネジメントの実践

ISO 9001：2015からISO 9004：2018へ、そしてTQMへ

日時：2020年5月21日(木)10:00～17:20

会場：日科技連 東高円寺ビル 地下1階講堂

定員：140名

プログラム：

基調講演「持続的成功を達成する能力を高めるための品質マネジメントの実践ーISO9001とISO9004とTQMー」

中條 武志氏（中央大学）

講演「ISO9001：2015の活用ー経営成果を上げるISO9001の読み方・使い方ー」

青木 恒享氏（テクノファ）

講演「ISO9001：2015からISO9004：2018へー組織の品質：ISO9004のマネジメントモデルとその活用ー」

安藤 之裕氏（安藤技術事務所）

講演「ISO9004：2018からTQMへー持続的成功を達成する組織能力を高めるためのツールとしてのTQMとその活用ー」

光藤 義郎氏（文化学園大学）

パネルディスカッション

福丸 典芳氏（福丸マネジメントテクノ）

齊藤 忠氏（岡谷電機産業）

他上記講演者

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020521>

### ●第122回研究発表会（本部）

日程：2020年5月23日(土)

会場：日本科学技術連盟 東高円寺ビル  
プログラム：（予定）

10:00～10:45 チュートリアルセッションA  
浅羽 登志也氏

（IIJイノベーションインスティテュート）

10:50～11:35 チュートリアルセッションB  
宮下 建治氏（日本マクドナルド）

11:40～12:25 チュートリアルセッションC  
村川 賢司氏（村川技術士事務所）

13:30～ 研究発表会

申込締切：2020年5月15日(金)

詳細・申込：[https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020523\\_2](https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020523_2)

### ●第425回事業所見学会（東日本・岩手）

テーマ：トヨタグループの革新の本質を学ぶー社会や環境との調和に積極的な取り組みと社員の誇りと夢を実現する体制ー

日時：2020年5月27日(水)午後

見学先：トヨタ紡織東北(株)

本社・北上工場及び金ヶ崎工場

定員：20名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

申込先：本部事務局

詳細：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020527>

### ●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会（東日本・岩手）

日時：2020年5月28日(木)13:15～16:50

### 「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

### 会員登録情報 更新のお願い

2019年8月より会員登録情報は、インターネット上から確認・修正変更することができるようになりました。

転動や異動など会員登録情報に変更がありましたら、「会員データベース」より更新してください。

会場：北上商工会議所 商工会館

定員：20名

講師：平林 良人氏（テクノファ）

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r020528>

### 行事申込先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)

本部：166-0003

杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会 名古屋支部内

TEL：052-221-8318

FAX：052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

新藤田ビル11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

## 事務局からのお知らせ

### JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の方に頒布いたします。

#### JSQC規格 Std 31-001 「小集団改善活動の指針」(英語版)

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、電話番号、E-mailアドレスをご連絡の上、お申込みください。

申込先：本部事務局 E-mail [sec@jsqc.org](mailto:sec@jsqc.org) FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊（A4判53頁:PDF版）会員20ドル、非会員25ドル

※日本円でお支払いの場合、受付日当日の日経レートにて換算いたします。

詳細：[https://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku\\_list.html](https://www.jsqc.org/ja/oshirase/kikaku_list.html)

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会

三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。